

横浜ドーム建設 「観光など利点」 推進市民団体がシンポ

横浜市内の企業などで構成する市民団体「横浜ドームを実現する会」は8日、ドーム球場の建設機運を高めようと第1回シンポジウムを市内で開いた。出席したパネリストは「プロ野球の振興や国内外からの観光客誘致のほか、地元住民の避難所などの防災拠点としてもドームの建設意義は大

きい」との意見で一致した。

市民ら約200人の前で、コンサルタントの西川りゅうじん氏は「魅力的な建造物ができれば観光集客につながる」と指摘。野球解説者の平松政次氏は「寒暖や梅雨のある日本の気候の下で野球選手が全力で試合に臨むにはドームが必要だ」と力説した。日本経済研究所専務の金谷隆正氏は国内の既設ドームの現状を説明した。同会は事業スキームや費用、採算性などドーム建設に向けた具体的な課題を整理し、年内に第2回シンポジウムを開く予定だという。